

S H I R O U S A G I

# しろうさぎ



vol.34

2013.10.1

島根大学  
SHIMANE UNIVERSITY



## 特集 アメニティ

- ◆ コンシェルジュの導入 温かいお出迎え
- ◆ 病院ボランティアの取り組み 明るく、笑顔で、お大事に
- ◆ 身障者ドライバー専用駐車場の新設 病院玄関が間近に
- ◆ 患者さんの食事の改善 治療でもあり、楽しみでもある食事
- ◆ 個室病棟の充実 静かに療養できる環境
- ◆ 緩和ケア病棟の花壇 花壇を憩いの場に
- ◆ 病院内のコンビニ いつ訪れても豊富な品ぞろえ

写真はハロウィンにちなんで行われた小児病棟でのイベントの様子です。

# 温かいお出迎え

## コンシェルジュの導入



車いす患者さんとのやりとり

「おはようございます」。毎朝、病院の玄関でにこやかに挨拶をしてくださるスーツ姿の方々がいます。そう、まるでホテルのお出迎えのように。その方々は「コンシェルジュ」と言います。名前だけでは少々分かりにくいですね。一体どのような方々でしょうか？コンシェルジュの柳楽真名美さんにお話を聞いてみましょう。

**Q** コンシェルジュのみなさんはどのような仕事をされていますか？

**A** コンシェルジュは全員で2人いるのですが、そのうち1人は玄関の外で、車いすで来院される患者さんのお手伝いをしたり、患者さんやご家族の院内の案内をしたりしています。もう1人は玄関を入れてすぐ左手側の「総合案内」と書かれた台のところで、各診療科の場所の案内やお困りの患者さんへの声掛けなどを行っています。2人とも朝8時から対応しておりまして、総合案内は外来受付が終了して来院される方の数が落ち着く12時頃まで、玄関の外はそれよりももう少し長く、15時頃までおります。

**Q** この仕事のやりがいとしてどのようなことがありますか？

**A** それは、患者さんとのつながりができることです。ある患者さんが入院中によく散歩に来られて一緒にお話をさせていただいたのですが、その

患者さんが退院されるときに「お話し相手になってくれてありがとう。おかげで入院生活が楽しくなったよ。」と仰ってくださいました。

**Q** 患者さんやご家族と接する際に心掛けていることは何ですか？

**A** 「コンシェルジュ」とは、ホテルの宿泊客のさまざまな要望、問い合わせに対応する「総合世話係」というような職務を担う人の職名として使われている用語です。私たちも、患者さんやご家族の方々によって求められる接客の仕方を見極めて、臨機応変に対応することを心掛けています。来院される患者さんは少なからず不安なお気持ちがあるかと思います。笑顔で接することで少しでもその不安を和らげることができるよう、丁寧で温かい接客をして参りますので、気軽にお声掛けください。

(取材：総務課広報担当)



コンシェルジュ  
柳楽真名美さん

# 明るく、笑顔で、お大事に

## 病院ボランティアの取り組み



予約受付機の操作を補助している様子

**本**院の正面玄関に入ると、緑のエプロンを着けた人が外来患者さんのお手伝いをしているのを見られたことがありますでしょうか？お手伝いいただいているのは、病院ボランティアスタッフの皆さんです。現在、附属病院には9名のボランティアスタッフが活動しており、今回はその中のお一人、岩本喜久生さんに活動状況などをお聴きしました。

**Q** 病院ボランティアスタッフの皆さんは、どのような活動をされているのですか？

**A** 私たちはボランティアスタッフとして予約受付機の操作方法の補助、診療科の場所の案内、車いす患者さんの補助、患者図書室「ふらっと」での司書的な役割、玄関ホールの生け花の世話、そして時々「院内学級」の補助もしています。外来患者数の多い月曜日・木曜日などは2名以上が参加するようにしています。ボランティアスタッフは医療サービス課を通じて募集し、院内関係者以外の方も参加しています。

**Q** 岩本さんが病院ボランティアに参加されたきっかけは何ですか？

**A** 私は以前、薬剤部長として本院に勤務しておりました。患者さんからの投書で、薬袋の渡し方が良くなかったというご指摘を頂いたことがありました。そこで、薬を渡す際に職員の目に付く場所に「明るく、笑顔で、お大事に」という表札を掲げて、職員の対応を改善しました。このとき、「医療従事者は、親兄弟に接するのと同じように患者さんに対して思いやりの心で接するべきだ」という医療人としての倫理観について改めて思いを巡らせました。

それ以来、お困りの様子の患者さんを見かけたら声をかけたり、車いすを押すのを手伝ったりするようになりました。退職後は本院でボランティアに参加して、20年以上勤務した本院や来院される患者さんのお手伝いがしたいと思い、スタッフ募集に手を挙げました。

**Q** ボランティア活動を通じて、嬉しいことややりがいを感じることは何ですか？

**A** ボランティアをしていて嬉しいのは、患者さんから「ありがとう」、「だんだん」という言葉を頂くことです。こちらまで笑顔になります。やりがいとしては、患者さんと直にふれあえる機会が多いため、ボランティアという立場は患者さんが困っていることに気付きやすいと感じます。例えば、高齢者の増加に伴い、患者さんが来院される際に必要な車いすの数が足りなくなってきたことに気付き、担当部署に伝えて車いすの数を増やしてもらったということがありました。今後は、院内の別のボランティア活動（例えば、自身が検査の被験者になる「創薬ボランティア」など）にも参加してみたいと考えています。

（取材：総務課広報担当）



病院ボランティアスタッフ  
岩本喜久生さん

病院ボランティアに興味をお持ちの方はこちらまでご連絡ください。

■病院ボランティア 連絡先／島根大学医学部医療サービス課ボランティア担当

TEL：(0853) 20-2290 FAX：(0853) 20-2063

# 病院玄関が間近に

## 身障者ドライバー専用駐車場の新設



身障者ドライバー専用駐車場

**身**障者ドライバー専用駐車場から病院玄関まで屋根で覆われているため、雨や雪に濡れる心配がありません。

病院再開発事業が終了して本院が新たなスタートを切った本年4月より、身障者ドライバー専用駐車場がご利用いただけるようになりました。

この駐車場は病院玄関のすぐ近くに設置され、車2台分の駐車スペースがあります。病院玄関まで一直線に進むことができ、途中で段差がありません。

また、車1台の駐車スペースを広く確保しているため、車のドアを大きく開いても隣の車に気を使う必要がありません。

立体駐車場2階に車20台分設けてある「思いやり駐車場」とあわせて、患者さんやご家族の方々のさまざまなニーズに対応できるように努めてまいります。

(取材：総務課広報担当)



▲奥に見える病院玄関まで一直線に進めます



▲立体駐車場2階 思いやり駐車場



井川幹夫 病院長より

身障者ドライバー専用駐車場をご利用されている患者さんの視点から、ご利用に際して不都合な点やご要望などがございましたら、お聞かせください。



# 治療でもあり、楽しみでもある食事

## 患者さんの食事の改善



誕生日（右上の写真）やご出産（左下の写真）などのお祝い膳もお出ししています。

**患**者さんにお出する食事は、患者さんひとりひとりの嗜好やこれまでの食習慣などを可能な限り反映できるように努めております。

本院の栄養治療室には現在8名の栄養士が勤務し、患者さんの栄養管理や給食管理を行っています。患者さんの食事を作っているのは本院から委託を受けている給食会社の栄養士や調理員です。日々、本院と給食会社の栄養士および調理員は患者さんの情報を共有し、協力しあいながら「安全で美味しい食事を提供すること」を第一に考えて患者さんの食事作りを進めています。

毎月1回、本院と給食会社の栄養士および調理員で献立検討会を開催しています。そこでは、患者さんに記入いただいたアンケートの意見を参考にしながら、毎月必ず新しいメニューを取り入れ

るようにしています。

また、患者さんと直接ふれあう「対面サービス」の一環として、本院の栄養士と給食会社の職員が昼食時に病棟に赴き、患者さんに煎茶やさつまいも、季節のフルーツ、バラ水などを提供する取り組みを毎月行っています。

（取材：総務課広報担当）



栄養治療室  
平井順子 室長より

入院患者さんは普段の生活から離れ、慣れない環境の中で過ごすこととなります。病院給食は栄養治療の1つですが、同時に食べる楽しみや喜びなどの役割もあると考えています。患者さんの健康の増進と病気の回復を目標とし、入院中に食事での喜びを提供できるような食事作りを続けていきたいと思っております。

# 静かに療養できる環境

## 個室病棟の充実



特別室Aからの開放的な見晴し

**本**院のC病棟9階には個室での入院を希望される患者さんの個室病棟があります。最上階の開放的な空間でゆったりとした時間をお過ごしください。

個室病棟には全部で24室の個室があり、うち1室は特別室A、残りの23室は特別室Bとなっています(※)。フロアの天井には出雲大社から寄贈いただいた檜皮炭を敷いて、防カビ・防臭・調湿効果を図っています。特別室Bには睡眠時無呼吸検査用の備えがある個室を2室設けてあり、この2室を除く個室病棟内すべての個室の壁紙に出雲和紙を使用しています。



▲炭および和紙の説明

フロア内には女性入院患者専用ゾーンもあり、患者さんは入り口で専用カードをかざして中に入ります。ご家族や面会の方はインターホンでナースステーションに用件を伝えると入口が開きます。中に入ると12室の女性専用個室が広がっています(すべて特別室B)。

(取材：総務課広報担当)

▶女性入院患者専用ゾーン入口



(※) 本院には4種類の特別室(A、B、C、D)をご用意しております。特別室Aが最も広く、バスタブ付きのシャワーユニットやソファが設けてあります。



C病棟9階個室病棟  
坂田述子看護師長より

個室病棟で大事なことは「静かで快適な療養環境をご提供する」ことだと考えています。私たちスタッフも環境の要因の一部だという意識を持って看護に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

# 花壇を憩いの場に

## 緩和ケア病棟の花壇



花壇の様様替えをしている様子

今年の5月頃から緩和ケア病棟の花壇の様子が変わりました。色とりどりの花が表情豊かに咲き誇っています。花壇の世話をしているのは「緩和ケアボランティアサークル」の医学部生たちです。メンバーは主に4年生で、中心となって活動しているのは6名程度です。そのうちの2名の学生にインタビューしました。

**Q** 花壇の手入れを始めた経緯は何ですか？

**A** 今年の4月下旬に病院長から学生主体で花壇のお世話をしてほしいというお話があり、花が好きなメンバーで集まりました。ゴールデンウィーク明けから苗や肥料の調達を始めました。

**Q** 花壇作りで工夫していること、やりがいを感じることは？

**A** 緩和ケア病棟の1つ上の階の小児病棟から見ても楽しめるようなデザインにしています。最初はアンパンマンの顔をカラフルな花たちで作りました。小児病棟から花壇を見つめる子どもたちの表情がにこにこしていたのが印象的でした。夏休み明けには小児病棟の子どもからの要望でカレーパンマンに模様替えしました。本院には長期で入院するお子さんもいるので、その子たちが飽きのこないように、これからも適度にデザインを変えていきたいと思っていま

す。また、花壇の手入れをしているときに患者さんやご家族が声を掛けてくださったり、一緒に苗を植えてくださったりすることがあります。そんな時は、「この花壇はみんなで一緒に作っているんだ」と感じて、嬉しくなります。

**Q** 花壇を見る方にメッセージをお願いします。

**A** 今後のデザインは検討中ですが、冬にイチゴを作ったり来春にチューリップ畑を作ったりできればいいと考えています。この花壇が「憩いの場」として、見る方に少しでも癒しをもたらすことができればいいと思います。花壇は、作る人と見る人が一緒になって楽しめるものだと思います。花に興味がある方は是非一度、花壇を見に来てください。また、デザインなどのご要望やお手伝いしていただける方がいらっしゃいましたら、以下のアドレスにご連絡ください。お待ちしております。

(取材：総務課広報担当)



緩和ケア  
ボランティアサークル  
宮里翔子さん(右)  
鈴木美香さん(左)

緩和ケアボランティアサークル 連絡先／メールアドレス：2525kanwa@gmail.com

# いつ訪れても豊富な品ぞろえ

## 病院内のコンビニ



店内の様子

**本**院の1階にあるローソンは年中無休で24時間営業しているため、夜中に緊急手術をする医師や付き添いのご家族の方々にも好評です。

本院内のローソンは今年の1月7日にオープンしました。店内の通路は広く、車いす患者さんや杖をついた患者さんが通りやすいような設計になっています。さらに、もう1つ車いす患者さんへの配慮として、ドリンクコーナーに扉がないため車いすに座ったままでもドリンクが取り出しやすくなっています。

病院内の店舗ということもあり、入院用品や医療用品を豊富に揃えています。

また、文庫本やお弁当コーナーの売り場面積を広く確保しています。お弁当コーナーは病院玄関ホール側の入り口

から入ってすぐのところに配置しており、レジ待ちの列と重なることがないため、ゆっくりと選ぶことができます。

(取材：総務課広報担当)



▲豊富な品揃えの医療用品コーナー



本院内ローソン  
栗原 和美 店長より

私たちが心がけているのは、「明るく、元気な接客」で当店をご利用頂くお客様に心地よい空間をご提供することです。今後も、お客様の声を反映しながら、快適でお客様に満足していただける店作りに努めてまいります。寒くなりましたので、おでんや中華まんがおすすめです。





## 救命救急センター長就任のご挨拶

にしな まさよし

医学部救急医学講座教授 仁科雅良



このたび救急医学教室に着任いたしました仁科雅良と申します。学生教育だけでなく研修医や救急救命士の教育にも力を尽くしたいと思っております。また診療においては救命救急センターとして地域の救急医療に貢献していきたいと思っております。言うまでもなく救急医療は病院全体のご協力がなければなりません。皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

リハビリテーション部より

## 心臓リハビリテーション指導士が誕生しました。

7月15日に仙台市で開催された第14回日本心臓リハビリテーション学会認定・心臓リハビリテーション指導士(以下、心リハ指導士)試験に、当院から今岡、江草(ともに理学療法士)が受験し、無事2名とも合格致しました。高齢化に伴い心臓疾患患者の数は増加していくと考えられますが、島根県では心リハ指導士はこれまで3名しかおらず全国的にみても少ない現状です。そして、県内で心大血管リハビリテーションを受けることができる施設は当院と松江赤十字病院の2施設のみであり当院の役割も非常に大きいものであると認識しています。

今後、さらに知識を深めると共に、後進を育成し、県内の心疾患患者さんの日常生活への復帰や再発予防などのお手伝いができる存在になりたいと思っています。

リハビリテーション部 今岡 圭



総務課より

## 若手医師の育成拠点「みらい棟」開所

若手医師の県内定着促進とキャリア形成支援の体制充実を目的に、平成24年9月から建設中の「みらい棟」が完成し、9月14日にみらい棟開所記念式典及び祝賀会を執り行いました。式典には、溝口島根県知事をはじめ島根県議会議員等約100人が出席し、小林学長ほか関係者、来賓代表者及び初期研修医代表者によるテープカットの後、新棟の見学会、厚生労働省医政局北澤潤医事課長による記念講演会があり、祝賀会では和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。



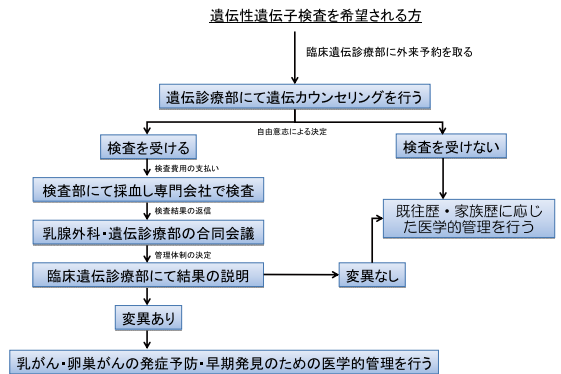
総務課総務係

## 乳がん・卵巣がん遺伝子検査を開始しました。

乳がんのうち約5%は遺伝性で、その多くはBRCA1またはBRCA2遺伝子の変異が原因です。これらの変異を持つ人は乳がんや卵巣がんの発症あるいは治療後に再発する危険性が高いことが知られています。遺伝子検査で変異の有無を調べることで、がんの早期発見や予防に結びつけることができます。検査を希望される方はまず医師による遺伝カウンセリングを受けていただきます。検査は保険適用外で自己負担額は約25万円です。

病態病理学・講師 磯村 実

乳がん・卵巣がん遺伝子検査の流れ



心臓血管外科(小児心臓外科)より

## 屈託のない笑顔を絶やさぬために ～小児循環器チームの立ち上げ～

山陰両県の先天性心疾患患者は他県に移動して手術を受けざるを得ず大きな負担でした。この度多方面からの協力を得て小児心臓外科手術を開始いたします。立ち上げにご尽力いただいた院内各部署の関係者に厚く御礼申し上げますとともに、より一層のご指導ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。「こどもたちの屈託のない笑顔を絶やさないよう」、山陰両県の小児心臓病治療の「最後の砦」となれるよう第一歩を踏み出します。



心臓血管外科(小児心臓外科)助教 藤本 欣史

呼吸器・臨床腫瘍学より

## 神在りの囲がんメディカルカフェ (がん哲学外来)を開催しました。

7月28日(日)14時から医学部附属病院外来中央診療棟3階「だんだん」にて開催しました。

このカフェでは、相談者と準備委員、医学看護の学生がテーブルを囲み対話型による懇談形式で話されました。種々の不安を抱く患者さまの思いを共有できるひと時となりました。今後もこの取り組みを続けることにより、患者さんのがん治療に寄り添っていきたいと考えています。



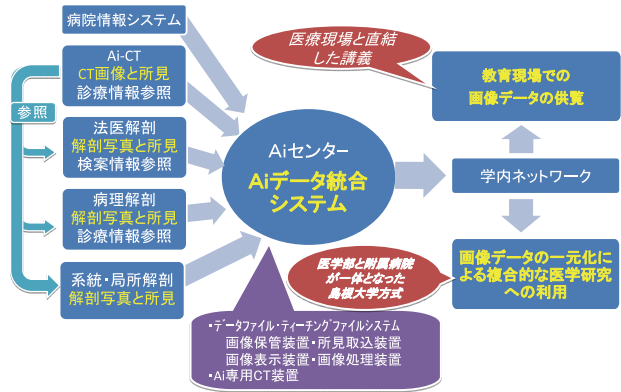
呼吸器・臨床腫瘍学 教授 磯部 威

Aiセンター・放射線部Ai室より

## Ai研修会(9/25)について

Autopsy Imaging (Ai)センターが開始され2年が経過し、9月25日には、第2回Aiセンター研修会を開催し、Aiの法医学的貢献、今日までの病院内Ai施行状況、新たなAi統合システムに向けて、Aiの医学教育への本格的導入、さらにはAi施行併用病理解剖における研究的試み等活発な議論が交わされました。今後ともさらなるAiを端緒とした大学貢献から先進的な地域社会貢献を行っていく所存でございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

Aiセンター長 竹下 治 男・放射線部Ai室長 小松 明 夫



看護師より

## 緩和ケア病棟花壇完成記念コンサートを開催しました。

緩和ケアボランティアの学生さんによりC病棟5階の花壇が可愛いアンパンマンの花壇となりました。C病棟6階が小児センター病棟であること、また、緩和ケア病棟の患者さんには野菜の収穫ができるよう配慮された素敵な花壇となりました。7月5日、学生さん達は収穫した野菜を使ったスープとおにぎりを作ってくれました。患者さん・ご家族と共に三線の生演奏による沖縄の音楽を聴き、癒やしのひとときを過ごしました。

C病棟5階・看護師長 伊藤 靖子



会計課より

## 電気自動車を導入しました。

災害対策の一環として、6月27日に電気自動車(日産リーフ)2台が導入されました。

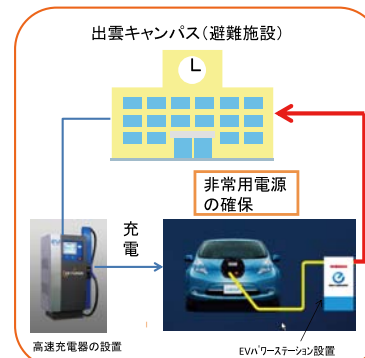
この電気自動車は、本学が地域住民の指定避難場所に指定されていることから、地震等災害による停電時の非常用電源を確保し、災害対策拠点としての機能強化を図るため導入したものです。

年内には電気自動車から電力を供給するためのEVパワーステーションが、入院患者等の避難場所となる体育館に設置され、平時には環境にやさしい公用車として、災害時には非常用電源として活用されます。

会計課長 石井 邦彦



設備整備イメージ図



総務課より

## 育児休業中のうさぎ保育所利用要件を緩和しました。

この度、本院の院内保育施設「うさぎ保育所」は、教職員の方々からの声を基に、育児休業中の利用要件を緩和しました。“当該育児休業に係る児童を除いては保育所の利用を可能とする”ことにより、更なる利便性の向上及び保育内容の充実を図ってまいります。

なお、特別な事情により当該育児休業に係る児童の一時預り保育を希望される方や、その他ご不明な点等ある方は、総務課総務係へご相談ください。

総務課総務係

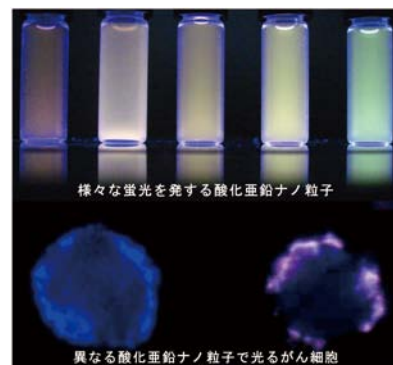


産学連携センターより

## ベビーパウダーで“がん”を早期に発見！

産学連携センター地域医学共同研究部門は、島根県内の出雲高校、益田高校、浜田高校、松江南高校の理数科1年生を対象に「フィールド学習」を実施しています。その中で、“がん”を認識するタンパク質(抗体)を結合したベビーパウダー(酸化亜鉛)で、がん細胞を早期に検出する技術を実体験します。他に再生医療技術や地域医療で活躍するロボットなども体験します。講義に続いて体験実習するので「大変分かり易い」と好評です。

産学連携センター地域医学共同研究部門・教授 中村 守彦



総務課より

## 「夢実現進学チャレンジセミナー」医学実習を実施しました。

医学部進学を志望する高校生が島根大学医学部で体験実習に取り組み、目標への理解と意欲を高める「夢実現進学チャレンジセミナー」医学実習(主催：島根県教育庁高校教育課)が8月7日(水)開催され、県内の高校2年生41名が参加しました。参加生徒は、「BLS・蘇生」「手術見学」など5つの実習プログラムを体験したほか、県内出身の医学部学生と懇談するなどして、医師への憧れと医学部進学への志を強くしていました。



手術見学

総務課企画調査係

総務課より

## 「中学生地域医療現場体験」を実施しました。

この体験学習は、中学生が医療現場での体験を通して、生命の尊さに気づき尊重する態度を培うとともに、地域医療従事者を目指す中学生の育成を図ることを目的として、実施したものです。7月29日、参加した出雲市内及び本学附属中学校の生徒27名は、一様に、普段見られない手術の見学や、内視鏡手術シミュレーションなど貴重な体験が出来、医療に対して興味がわいたとの感想を寄せていました。



内視鏡手術シミュレーション

総務課企画調査係

総務課より

## 「高校生手術部体験学習」を実施しました。

8月1日(木)、島根県内の高校生を対象に手術部体験学習を行いました。手術の現場に触れて医療への関心を高め、医師や看護師等の医療従事者をめざす人材を増やす目的で毎年実施しており、今年は県内9校から31名が参加しました。参加学生は縫合手技や手術見学等の4つのプログラムを体験し、体験学習終了後のアンケートでは「実際の手術の様子など、生の医療に触れて、より一層医師になりたいと思った」などの感想を述べました。



縫合手技

総務課企画調査係

## 第60回 セメイ医科大学創立記念式典・第9回 セメイ



期 日／

2013年8月23日～8月31日

参加メンバー／

|                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 島根大学長                   | 小林 祥泰 学長                  |
| 島根大学国際交流センター長           | 安藤 安則 教授                  |
| 島根大学医学部長                | 大谷 浩 教授                   |
| 島根大学医学部公衆衛生学            | 井上 顕 准教授                  |
| 島根大学医学部基礎看護学            | 福間 美紀 講師                  |
| 広島大学原爆放射能医学研究所名誉教授      | 星 正治 教授                   |
| 広島甲状腺クリニック              | 武市 宣雄 院長<br>(島根大学医学部臨床教授) |
| 島根大学医学部学生(4年生)          | 佐々木 弥生 さん                 |
| ヒロシマ・セミラチンスクプロジェクト(NPO) | 小島 知恵子 さん                 |

この度は島根大学とセメイ医科大学との国際交流協定締結後、初めての島根大学からのセメイ医科大学訪問であった。島根大学から小林学長、安藤国際交流センター長が参加し、医学部からは大谷医学部長、井上公衆衛生学准教授、福間基礎看護学講師に加え、医学部4年生の佐々木さんが参加した。また広島大学からは、星大原医研名誉教授と、武市広島甲状腺クリニック院長が参加。またNPOから小島さんが参加した。

セメイ医科大学の訪問は現地での講義活動や手術支援の都合で2班に分かれた。我々は先発隊として8月23日に広島空港からインチョン空港経由でカザフスタンに出国し、現地でマスターコースの医師を対象に講義並びに手術支援を行った。一方、小林学長や大谷医学部長は記念式典参加に間に合うように8月27日に出国した。帰りは全員8月31日に帰国した。

8月23日武市院長と小島さんと私、そして井上准教授、福間講師及び学生佐々木さん、星先生と合流し、7名が先発隊として出国した。

この度はセメイ医科大学癌センターにおける手術支援目的で自動縫合器2本と自動吻合器4本、それにカートリッジを8本含めて持参した。

8月24日4時30分起床、5時30分にチェックアウトしアルマトイ国際空港に向かった。7時30分のフライトでアルマトイからセメイに移動する予定であった。我々4名は予定通りセメイ空港に到着、セメイ大学の学長やナイラ教授等の懐かしい顔に迎えられた。直ちにセメイ医科大学癌センターへ向かい、午後から講義が始まった。この日は星教授が放射線物理学と福島原発事故の現状をマスタークラスの医師に講演された。

8月25日この日は日曜日にも関わらず、朝9時から癌センターにて講義が始まった。午前中は武市先生による甲状腺の疾患説明と手術療法の講義があった。午後は私の講義で、日本における胃癌の治療と、同じく大腸癌の治療をDVD画像交えて講義した。またこの日明日からの手術予定の患者さんについての術前カンファレンスを癌センターの先生達と行った。

# 医科大学国際シンポジウム 島根大学医学部総合医療学 野宗義博

症例1 / 50歳女性。右甲状腺に腫瘍あり、術前検査では嚢胞疑いであった。細胞診では悪性の結果であった。合同カンファレンスでは、手術として腫瘍を含めた甲状腺部分切除を提案した。

症例2 / 47歳女性。左乳腺腫瘍。腫瘍は乳頭直下にあり、大きさ2cm。すでに術前化学療法を受けており、腫瘍の消失もなくまた腋窩リンパ節の腫大(3、4個)を認めた。この症例は乳房切除とリンパ節郭清を行い、2年後に乳房再建の手術を勧めた。

症例3 / 57歳男性。術前検査で胃癌と診断。部位胃体上部に存在。大きさ3cm大であった。他に転移なし。この症例は術前に腹腔鏡検査で腹膜播種の有無を確認し、腹膜播種がなければ胃全摘治療を勧めた。

症例4 / 53歳男性。直腸癌で肛門縁から約5cm大きさ3cm大の進行癌を認め、他に転移なし。この症例は直腸切断術と人工肛門造設を勧めた。

以上癌センターで術前カンファレンスをおこなった。

8月26日手術日、私と武市先生、それに学生の佐々木さんの3名が手術室への入室を許された。この日の午前中の手術は、直腸癌の症例であり、私はタスポラータ副学長の執刀手術の助手を行った。

午後は前日にカンファレンスをした乳癌患者の手術を執刀した。助手は婦人科の美人の女性と、癌センターの乳癌専門医であった。乳房切除と腋窩リンパ節郭清を行った。術前検査では3～4個のリンパ節と言われていたが、実際は7～8個あった。幸い出血もなく神経、血管温存し、安全な手術に終わった。なお甲状腺疾患患者は武市先生が途中から手術に加わり、部分切除であつという間に終了した。

8月27日手術2日目。この日は胃癌の手術であった。患者さんはすでに腹腔鏡で検査も済み、腹膜播種もなく、胃全摘を行った。執刀は癌センターの先生で助手は私ともう一人の癌センターの先生であった。

午後は井上准教授による公衆衛生の講義があった。内容は日本における自殺の実態と、結核の現状の話であった。また福岡講師により我が国の看護制度の話を中心に講義が行われた。

8月28日第2班である小林学長、大谷医学部長、安藤国際交流センター長を空港に出迎えた。我々は空港からセメイ市の中央広場に向かい、第60回セメイ医科大学創立記念式典に参加した。

8月29日この日は朝から国際シンポジウムが開催された。10時からの参加者登録後、まず小林学長による島根大学の紹介があり、続いて大谷医学部長による島根大学医学部の紹介がなされた。続いて星先生による福島原発事故後の現状報告、武市先生による甲状腺機能低下による流産の推論、また私は腹壁癒痕ヘルニアの腹腔鏡手術を供覧した。

我々の発表している間に、セメイの平和記念公園では小林学長や大谷医学部長及び安藤国際交流センター長による献花式典が行われていた。

夜は大学主催の晩餐会があり式典はすべて終了した。

8月30日朝10時のアルマトイ行きの飛行機に乗るため、セメイ空港へ全員で向かった。セメイ医科大学長からのお別れの乾杯で別れを惜しんだ。昼過ぎにアルマトイに到着し、深夜11時30分発の夜間フライトで韓国のインチョン空港に向い、翌日31日昼前に全員福岡空港に到着した。

以上この度学長を始め多くの島根大学の関係者と共にセメイ医科大学を訪れ、今後更に両大学の国際交流の実現を願って活動を無事に終了したので報告する。

# 看護師募集

インターンシップ  
病院見学会へ  
来てみてね!

教育指導体制が充実した環境で  
自分らしくいきいきと働くことができます。

●インターンシップ ●奨学金制度 ●採用試験  
について詳しくは

看護部ホームページをご覧ください。

島根大学医学部

検索



お電話でのお問い合わせ

看護部 TEL **0853-20-2478**



国立大学法人 島根大学医学部附属病院

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1 TEL.0853-20-2021・2022 (総務課 人事担当)

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>